

(5) 東 海



東海地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

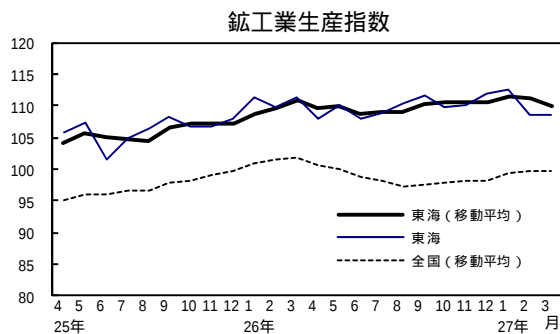
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 2 月)	今回 (平成 27 年 5 月)	
住宅建設	大幅に減少	減少	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1～3月期には、輸送機械は、乗用車、自動車部品等で国内向けが減少したこと等から減少した。はん用・生産用・業務用機械は、金属工作機械で北米向けが堅調であることに加え、国内向けが緩やかに持ち直していること等から増加した。電子部品・デバイス、スマートフォン向けが好調に推移したものの、高水準であった前期を下回った。化学は医薬品等が増加したことにより増加した。プラスチック製品は、工業用プラスチック製品等が減少したことにより減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	36.5	0.1	▲1.9	▲1.2	▲3.4	3.0
はん用・生産用・業務用機械	9.9	0.1	4.2	9.1	▲6.1	▲2.4
電子部品・デバイス	9.5	8.1	▲3.9	▲7.3	▲0.8	▲5.6
化学	6.9	▲1.8	6.4	15.2	▲5.7	2.0
プラスチック製品	5.9	0.4	▲1.9	0.3	▲6.6	3.3
鉱工業	100.0	0.3	▲0.5	0.7	▲3.6	0.0

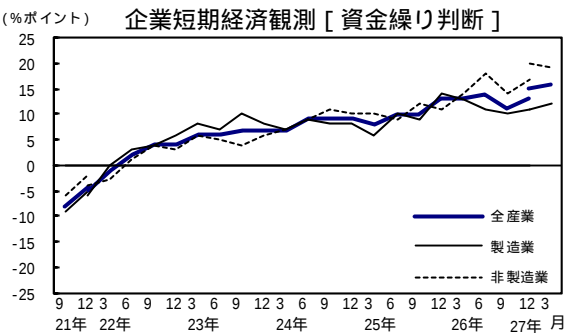
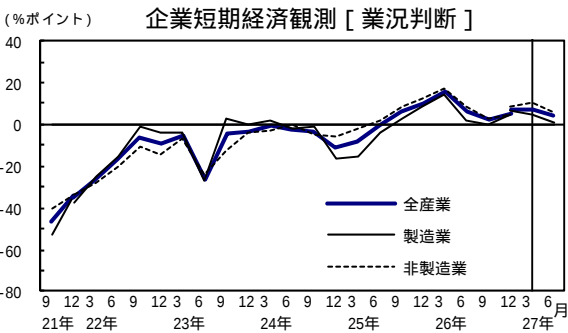
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

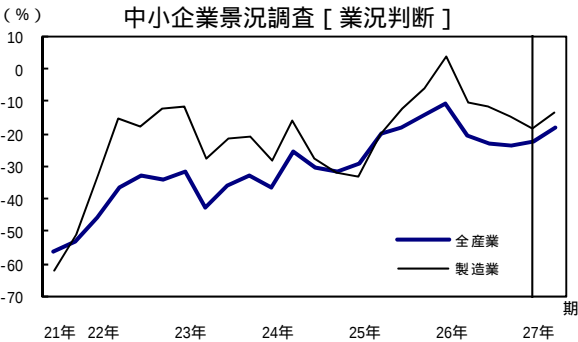
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年6月は予測。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

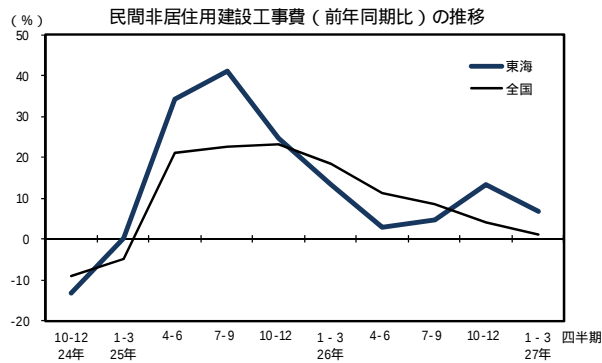


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査 (4 月) [企業動向関連 (現状)]

「年初には中国でのスマートフォン向け設備特需が続いていたが、それも落ち着き、例年並みの水準に落ち着いている (一般機械器具製造業) 」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (3 月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績見込み	27年度計画
全産業	9.2	4.6
製造業	11.1	3.8
非製造業	7.0	5.5

(備考) 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比2.3%減、2月は同2.0%増、3月は同0.1%増となった。

大型小売店販売額

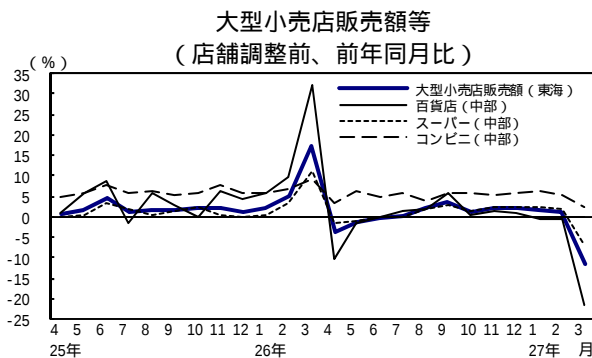
百貨店は、1、2月は、高額商品や催事に動きがみられたものの、冬物衣料品が振るわなかったことから前年を下回った。3月は引き続き高額商品や催事に動きがみられたものの、前年の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動から前年を下回った。

スーパーは、飲食料品が堅調であったものの、衣料品、その他製品が振るわなかったことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

東海地域の家計動向関連DIは、51.5 となり前月より3.5ポイント上昇した。

「2～3か月前は平均単価が3万円以下の商品が売れていたが、今月になってから5～8万円くらいの高額商品が売れている。来客数は変わらないが、売上は増加している (百貨店)」など「やや良くなっている」とする回答が増加した。



	27年1-3月	27年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	▲0.9	▲2.3	2.0	0.1
大型小売店(*2)	▲3.3	1.6	1.3	▲11.6
百貨店(*2)	▲9.0	▲0.5	▲0.4	▲21.4
スーパー(*2)	▲1.0	2.2	1.9	▲6.9
コンビニ(*2)	4.6	6.3	5.3	2.5
乗用車(*3)	▲15.1	▲21.1	▲14.8	▲11.2
(季節調整値)(*3)	▲8.9	▲12.4	▲1.9	1.0

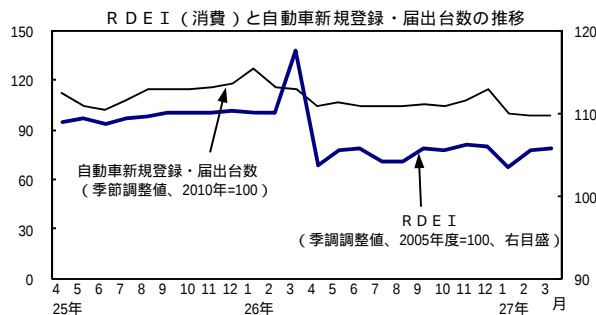
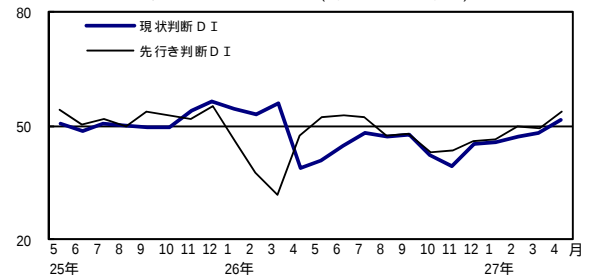
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー、コンビニは、中部

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))

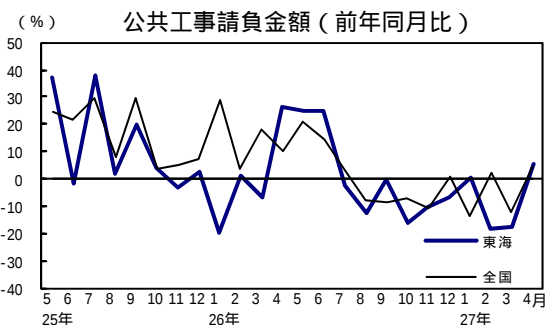
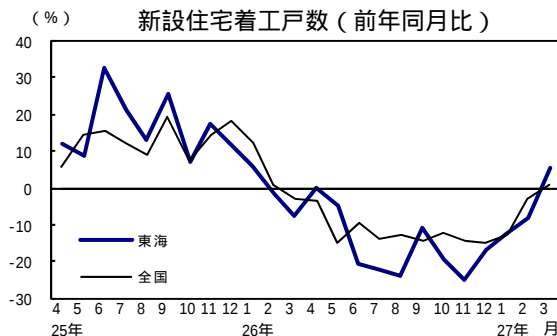
景気ウォッチャー調査 (家計動向関連)



(2) 住宅建設は減少している。

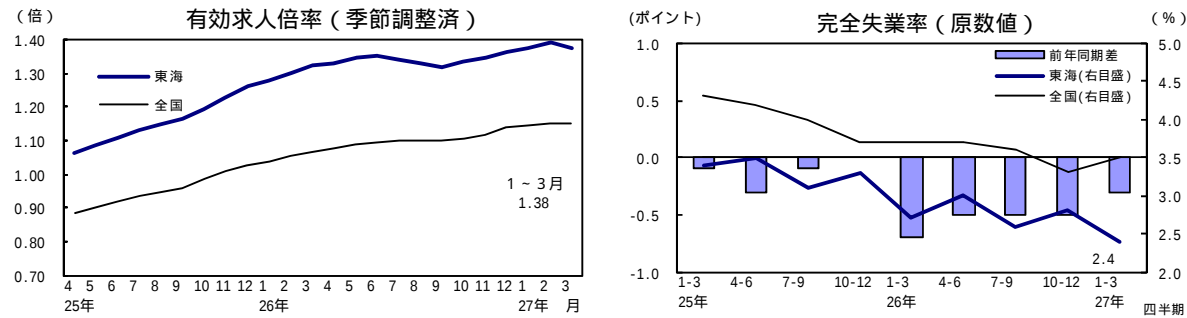
持家、貸家が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は26年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

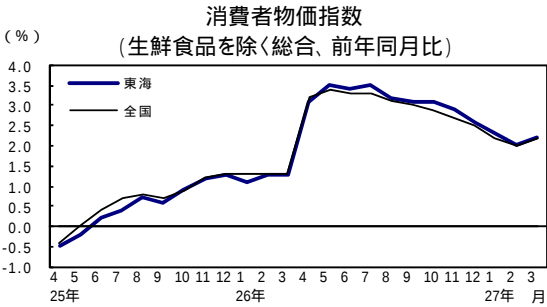


景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]
「国内の自動車生産は緩やかではあるが回復傾向にあり、人手不足を見据えて雇用を確保する動きも出ている (アウトソーシング企業)」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年4-6月	7-9月	10-12月	27年1-3月	27年4月
倒産件数	309	270	273	249	93
(前年比)	▲16.3	▲17.2	▲20.6	▲21.2	▲13.9
負債総額	420	481	384	716	170
(前年比)	▲36.9	▲22.0	▲39.4	57.2	▲5.4



- 景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]
- <現状>
- ・乳製品等を値上げしたが、販売量に大きな変化は見受けられない。チラシを入れなくても2月の来客数を上回っているので、状況は悪くない (スーパー)
- <先行き>
- ・新たな販促活動や品ぞろえの強化で、ゴールデンウィークから夏季にかけては、客単価の上昇と来客数の増加を見込む計画である (コンビニ)

